

器 Exner's microrefractometer といふ。是は便利な器械であるが、下ニコルを絞る装置があれば必しも備へるにも及ばぬ。

此等の作業に當り無色透明の結晶が互に接した境界は屢不明であるから、模寫及び屈折率の測定に當り、上ニコルを挿入して區別する必要がある。特に斜長石の場合では直交ニコルの間で雙晶片の縞目になる現象に注意し、之を模寫するを要し、又た結晶の消光方向の一がバルサムより屈折率高く、他の一が之より低い場合にも、その各の方向を寫した結晶の圖に記入し n'_g と n'_p との位置を示すべきである。

新著紹介

○臺灣文化志

伊能嘉矩著 刀江書院發行 上、中、下
三卷、各卷 定價 十圓

臺灣に關する空前の著述が篤學の君子伊能氏の死後に於て出版された。大日本地名辭書の臺灣の部の執筆者であつた。

伊能氏は、臺灣民政部に奉職されてゐた當時臺灣藩政志以下臺灣に關する數十の論著を或は書籍として或は雜誌等に掲載されたのであるが、筆者は地名辭書臺灣の部を手にした時既にその質實周到なる研究的態度に敬服した一人であつた。領臺以後明治三十八年まで凡そ十年間は臺灣に居て親しくその山川を研究されたが、大正十三年まで調査に關して總督府の史料編纂委員として仔々として研究に努力された、蓋し先生

は一生を通じて臺灣の研究に没頭された人であつた。支那本に臺灣紀略、臺灣府志、臺海使槎錄等があるけれどもまた嘗て本書の如く親切丁寧を極めたものゝ出たことはない。本書各卷菊版一千頁に近いものであるが上卷には清朝以前に知られた臺灣、領臺原始、文治武備沿革、治理政策の四篇、中卷には教學の施設、社會政策、特殊の祀典及信仰、修學始末、經政沿革、農工沿革、交通沿革の七篇、下卷には商販沿革、外力進漸、植植沿革、番政沿革、臺灣割讓、地勢の變遷の六篇。かうした各篇に章を設け節を分ちて微に入り細を穿つて、しかもその解説に些のゆるがせがない。誠に稀觀の努力である。予は中卷の特殊の祀典及信仰を讀んで、彼土に於ける寛神の位置を面白く見たり、經政沿革の地積制をみて、臺灣の甲についての疑問をばらした、これは書を見て忽々の間の拾ひ讀

みである、之によつて全般を律するのではないが、少しでも書を著した経験のあるものがかうした三千頁からの大冊を三十年努力の結晶として見せつけられる時たゞ何ともいへぬ涙ぐましい感にうたれる。予はかうした眞面目な本が少くとも日本の相當な圖書館には備へらるべきであることを期待しまたかうした圖書を買つておくのが學界への貢獻であると信する、たとへ今之を讀まぬとしても、之を見せる丈けでも若い學徒への刺激になるからである。圓本流行の今の世に、敢然としてこの大部の書を刊行した刀江書院の奮發には、筆者も大に感心して、さきに此書の發刊を同書院に祝福したことであつた。たとへ學士院からの補助が少し位あつたとしても、尾高氏の努力は、この書を校正出版せしめた板澤博士、小長谷學士、の努力と共に合せて永遠に錄されねばならぬと思ふ。(藤田)

○日本農業地圖

九寸九分×七寸二分版 昭和三年十月

東京麹町區有樂町帝國農會發行 豫約價壹圓

農業は他の産業に比し風土の制約を受けることが甚しく従つて地理的特性を表はすことが著しい。而して農業の地理的特性を圖示した地圖即ち農業地圖は農業地理研究上缺くべからざる資料となるものである。本邦にはかゝる農業地圖がなかつたが、ここに初めての本地圖を獲たのである。本地圖書は主要な農作物及家畜の分布狀態を示すのを目的とし、別に參考として地勢圖氣象圖及統計表を収めたもので、其の材料は大正十三年度の第一次農林省統計表によつて居る。作圖分

用し得べきものである。(S)

○世界鑛産概勢(金銀白金篇)

渡邊萬次郎著 古今

書院パンフレット 十月 定價參拾五錢

渡邊博士の流暢な筆で世界の金産、銀産及白金の變遷、源泉、地理的分布、國家的分布を説いたもので巻頭には總説として鑛産の地文的及人文的條件を該博な例證を擧げて説明してある。初等教育に對しても中等教育に對しても國民としての必要知識を提供して居る所に本書の特色がある。(N)

○日本人口分布圖

田中啓爾、山本熊太郎共編 縮尺

百萬分一 五枚一揃 説明書(八頁)付 十月 古今書院

定價 一冊 七十五錢

本人口分布圖の區域は北海道・樺太・沖縄及朝鮮を除いた舊日本に限られてゐる。人口を二百人、五百人及一萬人の黑點で表したものであるが、圖の縮尺の爲めと二百人の小點の輪廓が粗雑である爲め殆んど五百人と一萬人との點は點で表はされてなくベタ一面のものとなり終つた。人口の基本は大正九年の國勢調査市町村別人口に據つたといふことである。説明書によると本分布圖は編者の一人である山本熊太郎氏の三箇年の拮据苦心の結果成つたものであることが窺はれる。原圖は四十萬分一圖上にプロットしたもので其の原圖は頗る明瞭見事なものであるさうであるが、其まゝ縮小した爲め黒ベタが出来たことになつたのである。この黒ベタと小點の並列とが第四紀層の分布と一致してゐる爲めに我等には都合のよい第四紀層分布圖になつたのは何が幸になるか判らない。尤も初めから第四紀層の分布圖を作つたなら多分二箇年はかゝらなかつたらう。猶本圖の構成の方法については詳説してないが一町村の總人口を其の區域内に數個の點として分布させたのは五萬分一地形圖の集落を参照してきめたところだが、地形圖には集落の人口が書いてない（尤も明治二十三年に出来た陸地測量部の美しいケバ書きの十萬分一大島圖彙などには人口が書いてあつたが）。散在した集落の人口を五萬分一から推定したのば實にえらい。あまり集落を注意しすぎて山と平地とにかゝつた村の人口は後に例を擧げる様に大部山の中の谷間に追ひあげられて居るから、後來眞の人口分布圖が出来た

ら一時に山の人を平地に移つたのだと、この分布圖に依るカダシの人文地理學者は云ふであらう。「地球」の八月號（第十卷一八頁）にかゝげられた長野縣上伊那郡人口分布圖と對照するとこの山間へ追ひ上げた證據は明瞭にされる。一例をあげると本人口分布圖では東箕輪村の長岡新田の谷に人口が追ひ上げられたのが著しい。こんな風に其の土地土地の人情が見たら随分おかしい人口の配分が認められるだらうといふことを恐れる。もともと大半別の人口が出てゐないものを無理にこんな風な散點式の人口分布圖としようとした處に刻苦があつたし、説明書中に「悲痛な行進曲」なんて道頓堀式の真情を述べなければならなくなつたのだし、國際的作品となつて活動のフィルム様の様に海外に旅をしたり、「地球」の新著紹介ではあまりよく云はれなかつた無理がある。ともかく今は少しの異動はあるにしても村町界が赤線で印刷された百萬分一地圖を得たのは何より便利である。然かも發行書肆の奮發で甚だ手に入り易い。（嫌點生）

○土木地質學

渡邊實著 菊版本文百三十四頁 附錄三

十七頁 工業雜誌社發行 定價 二圓五十錢

本書は地質學を専攻されたる理學士渡邊實君が鐵道省に奉職後實地に視察せる所を基礎として編輯せるもので言々句々一切實なる實感を伴ふものである。單に形式を整へたり、書籍の外觀を飾らんとする爲めの無駄が全然なく百三十頁の本文と三十七頁の附錄とは近來兎角巷間に現れ勝ちな荒組み

にして内容が空虚なる著書の四、五百頁のものには相當する。五十一字詰、十八行の充實した各頁は九ポイントの鮮かな活字で組まれ、百四十五の圖版と共にハチキレさうな内容を盛つて居る。本書は著者が鐵道省技師である關係上問題な主として鐵道工事と地質學との上に集中して居る。従つて本書は其の内容に於いて土木地質學第一巻とすべきであらう。何となれば土木地質學全城を蔽ふ爲には更に水力電氣工事に關するもの、地下水、温泉等に關するもの、都市計畫や道路に關するもの等が鐵道に必要な土木地質學を除いても尙ほ必要であるからである。

土木工事上に必要な地質學は今や通り一邊の教科書流や大學の講義などを以つて充たされる事が出來ない。鐵道の路線が九分九厘まで決定されたる後に、其の線路を四・五米乃至數百米の少量だけ移動する事によつて或は斷層を避け或は礫岩を避けて砂岩中を貫く事によつて多額の經費を節約し得るのである。又た本書にはないけれども東京市の地下にある各部分の沖積泥土の厚さを決定する事に依つて其の上に建設せらるべき家屋の高さが決定され又耐震工事の程度が決定されるに至るのである。

本書附録に加へられたる「山崩れの分類」「地質別切取及築堤法勾配表」「地質別基礎地盤許容荷重表」「本邦適用地質別切取及築堤法勾配表」の如き何れも最も貴重なる資料である。

實に本書は地質學と土木學とを直接に結び付け、引いては地質學が人生の福利に貢獻すべき一新面を指示せる日本語で

書かれたる最初の著書である。本書の出現には著者の優れたる頭腦と語學の力と鐵道省即ち社會の一方面に於ける斯學の要求とがあつた事を見逃す事が出來ぬ。評者は土木家のみならず空疎なる机上の地質學を弄んで居る士にも取えて一讀を勧める。(本間)

新著即報

○日本地質學地理學輯報第六卷第一一二號九月

Jurassic plants from the Fang-tsu Coal-field,

Shantung. (H. Yabe and S. Ôishi).

A new species of *Protoblaetium* from the Hei-Shan

Coal-field in Shantung. (H. Yabe and S. Ôishi).

Notes on some interesting fossils from South

China. (H. Yabe).

A new Palaeogene species of *Sequoia* (S. Endô).

Some characteristic features of the ore deposits

of Japan, related genetically to the Late Tertiary

Volcanic activity (T. Katô).

A note on *Hemiphyris "Psittacea"* (Brauns) from

Hitchin province. (I. Hagsata)

A new species of *Sphenophyllum* from Shansi,

China (H. Yabe and S. Ôishi)

On the geology of the Tanzawa Mountainland,